

---

# 魔剣から始まる物語

むささび

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔剣から始まる物語

### 【Nコード】

N9290Z

### 【作者名】

むささび

### 【あらすじ】

主人公は少し捻くれている考えをもつ中学生二年生。中学生にしては知識が豊富だが、やっぱりどこか捻くれています。時折人生を悟ったような風を見せる。そんな主人公、向井 むかい 夕 ゆう は、ある日を境に見たこともない世界へと飛ばされてしまう。そこで見つけた剣から、彼の物語がスタートする。

基本的にまったりと進む物語。一話ごとの文少量は少なめでさくさく読めていけるような小説にしていけたらと思います。

## 00? プロローグ(前書き)

彼の周りは木で満ちている。真っ暗で、月だけが彼に微笑みかけていた。彼は、そんな中で目を開ける。

## 00? プロローグ

さっきまで、燃え盛る家にいたと思ったんだけど、

ここは、どこだろう。

「……夜。だね」

周りは暗いな。

ここは、森？

変な鳥の鳴き声も聞こえる。「ほぐ、ほーぐ」「……」こんな鳴き声する鳥がいるかは怪しいけど。

空が、きれいだな……。

月がまん丸……やけに大きいし青白い。僕の知っている月とちよつと違う。

……そろそろ状況整理をしないと。

えつと、柳井さんの家が燃えた。燃えたね。それで、春が取り残されたって叫びながら隆介が家に飛び込んだって聞いた。僕も飛び込んだ。春がダンスに挟まって、それをどけようと隆介が頑張ってたから、手伝った。春を助けて、それから、家の外に出て。

……いや、出てないか。出ようとしたら家が崩れたから2人を突き飛ばして、僕が下敷きになったのかな？

……死後の世界かな、ここは。

「綺麗なところだから、天国？」

暗いけど、空気は澄んでるし、星は見えて綺麗だし、葉は青々と生い茂ってるし。

「……死んだ後が皆こうなら納得だけど、普通に傷口から血が出て痛いし、服は焼け焦げてて肌寒いし」

意味不明だよ。死んだら、そのときの姿のまま幽霊になるとか、そんな話もあるからまだこの姿に納得してもいい。服がボロボロで焦げて焼け落ちて、ちよつと生まれたときの姿に近いのにはまだ納得できる。ただ、寒くてだんだん体調が悪くなるのには納得いかない。

……まあ、このまままた死ぬのでも構わないけど。

いや嘘。せつかく変なところに着たんだから観光でもしないと損だ。

よっし、節々が痛いから、あそこに見える祠みたいところで休憩してから出かけますか。

あれ、あそこ……剣？ 見たいなのが刺さってるな。台座に刺さってるのかならかつこいいのに、無造作に壁に突き刺さってるって言うのもどうなの。

この先何があるかわからないし、ちょっと拝借しようかな。見た目ボロボロの剣だけど、ないよりはマシでしょ。

そう思って手に取った剣が、僕の異世界での物語の起点だった。

異世界生活初日。

向井 夕（むかい ゆう） 現状

武器 ？？？

防具 燃えカスの服

重要道具 もってない

所持金 500円（ポケットに入っていた）

技術 ？？？



職業

中学二年生だった

001 (前書き)

彼は助けられる。人の手が彼を明るみへと運んだ。彼の運はここで尽きる。残るは悪運か。

僕は向井夕。むかい、ゆう、だ。

趣味は観光名所巡り。といってもまだ日本の数箇所しか回れないお小遣いが少ない極一般的な中学二年生。でも実際、あれってあんまりロマンがないよね。僕の好きなこととして未知かつ未発見で、誰も見たことのないような絶景を探すって事をしたいと思っていたけど、いまやインターネットやら、雑誌やら、何かを使えば簡単に絶景の写真が簡単に手に入る。

そんなことに半ば萎えているだけの、勉強に熱心で、スポーツもそこそこやっていると自負している、普通の中学生。

だった。

「小僧！ さっさと掃除を済ませろ！」

「じめんなさい……」

怒鳴らなくても掃除くらいするよ。飯を食うには仕方ない。さらに言葉も教えてもらってるのだから、頭が上がらない。けど腹は立つね。はあ……。

「いいか。俺の食堂で失敗はゆるさねえからな！」

失敗って言っても、言葉を知らない僕にどう仕事しろと。とりあえず、ウェイターみたいなことはやって手伝ったりはしてるけど、いかんせん言葉が上手に操れない。とにかく、今は掃除。掃除はとりあえず、掃除機的な道具が無いから拭き掃除が基本だね。今はあったかい時期だからいいけど、冬になったら僕はシンデレラになれるんじゃないだろうか。……ってあれ、おっさんどこいくんだ？

「アンデの、店長、どこ、行く？」

「買出しだよ！ 仕事を済ませとけ！」

と、アンデが店のドアを激しく開け閉めして出て行った。

……はあ。まさかここが異世界なんて思わないよなあ。もうあれから33日経つけど、慣れないよなあ。

異世界って気づくには時間はかからなかった。初めてあったあのおっさん、アンデが何も無い手のひらから急に炎をだす、元の世

界で言う、魔法を目撃したからだ。

こりゃあ、もう異世界としか言いようが無い。隆介が非常に行きたがっていたから、変わってあげたい気分だ。魔法が使えたらどれほどかっこいいことかと事あるごとに嘆いていたからね。ただ異世界の現実の魔法使いは料理屋を営んでいて、そんなにカッコイイわけじゃなかった。いつかもとの世界に帰れたら隆介に教えてあげよう。

掃除おっしまい。うむ、ほこりのある部分が見つからない綺麗具合だ。家事は得意なんだよね。さて、休憩……っと、まだ仕事が残ってた。インクと紙が視界に入ってしまった。

……はあ、食うためには仕方ない。仕事を済ませてしまおう。ペンはどこだ？

えっと、これ、どう読むんだっけ？ 売り上げ、だっけ？ まだ、異世界の言葉が覚えきれない。英語っぽいけど英語じゃない言葉だから、聞く分にはあまり苦労しなかったんだけど、話すとなるとだいぶ苦戦する。もう数ヶ月もすごしてるからちよつとづつは話せるようにはなってる。ホームステイってこんな気分なんだろうな。

でも、数字の概念は元の世界と一緒にだった。だから僕は今会計の仕事とか、主に数字に係る仕事をアンデ店長から貰えたんだけどね。

実際僕はかなり運が良かった。何も口に出来ずにふらふらしてるときアンデに拾われなかったらと思うと、異世界のきれいな景色を見れずに死んでしまうところだった。意味も無く怒鳴り散らす人だけど、根は優しいと思う。腹立つけど。

僕の趣味は名所と景色めぐり。なんだけど、今の生活もままならない状況じゃそんなことも出来ないよなあ。元の世界であった小説とか漫画みたいなファンタジーの世界だから、戦ってお金稼ぎ。なんて無理だよなあ。すぐ死ぬよなあ。剣道はやってたけど、甘いよなあ。

魔法っていうのも存在するみたいなんだけど、三年間訓練しないと使えない上に、魔法使うには免許がいるみたいだし。っあ、ここ計算間違った。消しゴム……なんてないよなあ。紙は貴重品なのに、おっさんごめん。

……にしても、正直この借金は無いよなあ。家の事情とかまったく話してくれないし、強そうな体してるのに騎士ってやつにはなりたくないって言うし。騎士のほうがいい生活してそうなんだけどなあ。

……それに、なんだこの修繕費の高さ。毎度毎度何か壊してないところなのに店に金がかかるはず無いぞ。

冒険者御用達のお店だからか？ 味がいいし量も多いから若い人につけるのはよくわかるんだけど。気が荒い人も来るってことだよなあ。

なんて色々やってると、たしかまだ準備中の看板を出していたはずなのに、アンデ以外の人間が入ってきた。これは初めての出来事だ。もしかしたら、お店がもう開いていると思っただけなのかな？ ええっと、こういうときは

「これから、お店、準備してね」

だったかな？

「はあ？ 何？」

どつやら違つらしい。そろそろと、四人ほどお店に入ってきた。

「えっと、まだ、お店、開いてる？」

「うぜえ」

罵倒された。それだけならまだしも僕のお腹に重い蹴りを入れてきた。痛い痛い。なるほど、こんな客がいるから修繕費が高いのかね。こいつら何しに来たんだ？

「アンデの野郎はどこだよ。さっさと払うもん払ってくれねえと困るんだよ」

「て、店長、売り買い」

買い物ってどうやって言うんだっけ？

「ちっ、使えねえ」

再び蹴り。あー、店長早く帰ってこないかなあ。買い物行ったらもうしばらく帰ってこないんだよなあ。

「おい、酒だ、酒。×××店にも酒くらいはあるんだろ？」

酒？ えっと、お酒を欲しがってるんだな。

「いま、売り買い」

「×××××な店だな。買う余裕があるなら金を払えつつのお。おら謝れよ。酒無くてすいませんってな」

はい、蹴り。何に対して謝れってんだよ。お店もまだ開いてないんだから酒無くて問題ないだろうが。アホどもめ。そろそろ避けようかな。でも避けたら避けたらでまた逆上するし。あーめんどくさいな。さっさと帰らないかな。

「ごめんなさい。ごめんなさい」

惨めに謝るしかない。まあ、自分が惨めとも思わないけど。確か、こういうのは一般的に惨めなんだよな。正直そんな感情より早く帰ってくれないかなあって思いのほうが強い。

……っていつか、客じゃなくな。気づくの遅かった。さっさと追い出せばよかった。

「あはっはっはっは、×××もねえ×××だな！」

……知らない単語で罵倒されてもなんら悔しくない。はあ。男四人が僕を指差して笑ってるのはなんとなく腹が立つけど、やっぱり何を言っているのか、単語を知らないから聞き取れない。

「にしても汚い店だな。掃除はやってるみたいだが、テーブルも椅子も古びた木材。しょっぱいなあ。処分に困ってるなら」

……こいつ。椅子なんか持ち上げて何するつもりだ。僕に当てる



つもりは無いみたいだけど。

「俺たちが代わりに処分してやらあ！」

……なるほど。客がやるんじゃないくて、こういう糞野郎がくるって理由から修繕費が高いのか。椅子が窓ガラスにたたきつけられて、激しく壊れてしまった。ガラスって激しく割れると、がしゃーん、ってよく擬音で表現されるけど、本当にがしゃーん、って音を立てるんだな。思ったより高い音でうるさいな。

「はははははっ！」

「こいつぁーいーぜ！」

まったく、どこの世界もいじめる側ってやつらは考えることが同じなんだな。……はあ。アンデに止められてるけど、斬り捨ててもいいかな。この世界のルールってのがいまいちわかってないから危険なんだけど、ここまでされて流石の僕もご立腹だよ。

「なにやってる糞傭兵共」

アンデさん降臨。助かるぜ！ただ、助けに来た男って言うには、大きな紙袋を抱いて持つてるのは格好がつかないよね。

「ああ？　×××騎士×××が何を×××てんだあ？」

「ああ、もう騎士ですらなかつたな。はっ、ははは！」

ニヤニヤと腹立つ笑いを浮かべる男。今アンデを騎士とおっしゃいました？　やっぱり騎士だったんだ。やめたのには理由でもあるのかね？

「さつさと用件を言え糞共。俺は今機嫌が悪い。焼くぞ」

うお、凄い剣幕。焼くぞって、本当に焼こうとするなよ、右手から火が出てますよ！

「うっ、く、金だ！ 献上金を出しやがれ！」

へいへい、敵さんびびってる。アンデはそのまま店の奥に消え、袋をもつて戻ってきた。その袋を傭兵達？ の一人に投げつけると、一言、消えろと言った。カッコいい。

傭兵達は苦い顔を浮かべながら、店を出て行った。

「小僧、大丈夫か」

「そこそこ。ごめんなさい」

「謝るな。お前こそよく我慢してくれた。ここであいつ等にちよっかいだすと、ちいと面倒だからな」

んー。……そんなものかね？ 人殺しが頻繁に起こるこの世界であいつら程度不慮の事故で行方不明になっても、特に変わりはないような気がするけど。ただ手を出すくらいのもちよつかいとかで小さい店を襲いに来るかな。それでも、元の世界じゃ善良な市民だったんですよ。

「それに、今は××だ。涼しくなるし、ちよっどいい」

アンデはにやりと笑ったが、一部なんて言ったかわからなかった。

後で聞いたところ、夏、って言ったらしい。

しかし、言葉1つ教えてもらっただけでも一苦労だ。相手は日本語も中途半端な英語も通じない相手だ。夏って言葉を理解するだけでもこの世界の日付とか、そういうのから手振り身振りで教えてもらって、この時期が夏だよ、って説明がないと季節すら理解できない。不便だ。

……もしばらく言葉の勉強をしないと。

こっちの世界で生活もままならないや。……はあ。

### 異世界生活33日目

向井 夕（むかい ゆう） 現状

武器 ？？？

防具 異世界での服

重要道具 もってない

所持金 500円

技術

剣道

異世界の言葉（ちょっと聞ける、ちょっと話せる

中学2年生レベルの数学

職業

冒険者御用達らしいお店の店員（バイト

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9290z/>

---

魔剣から始まる物語

2011年12月30日02時46分発行